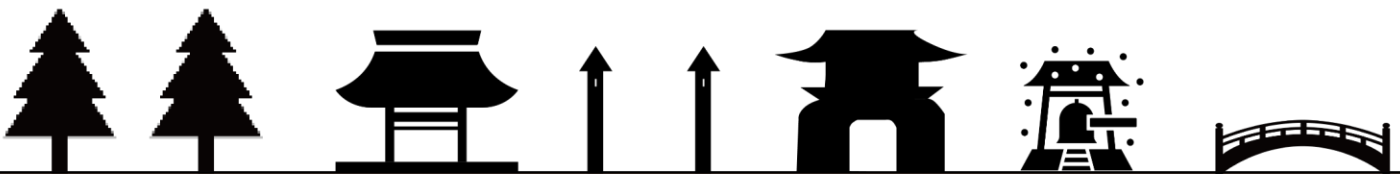


浄興寺大門通り景観ポイントブック

- 心地よい景観が共助の精神を育む -



令和7年7月 上越市



目次

景観ポイントブックの使い方	1
浄興寺大門通りの景観形成に向けて	2
景観についてのアンケート	3
高田寺町の歴史	4
浄興寺大門通りの将来を考える上で	5
修景整備のための3つの景観コンセプト	6
「空間への気遣い」と「人の活動」	7
空間への気遣い	8
人の活動	11



景観ポイントブックの使い方

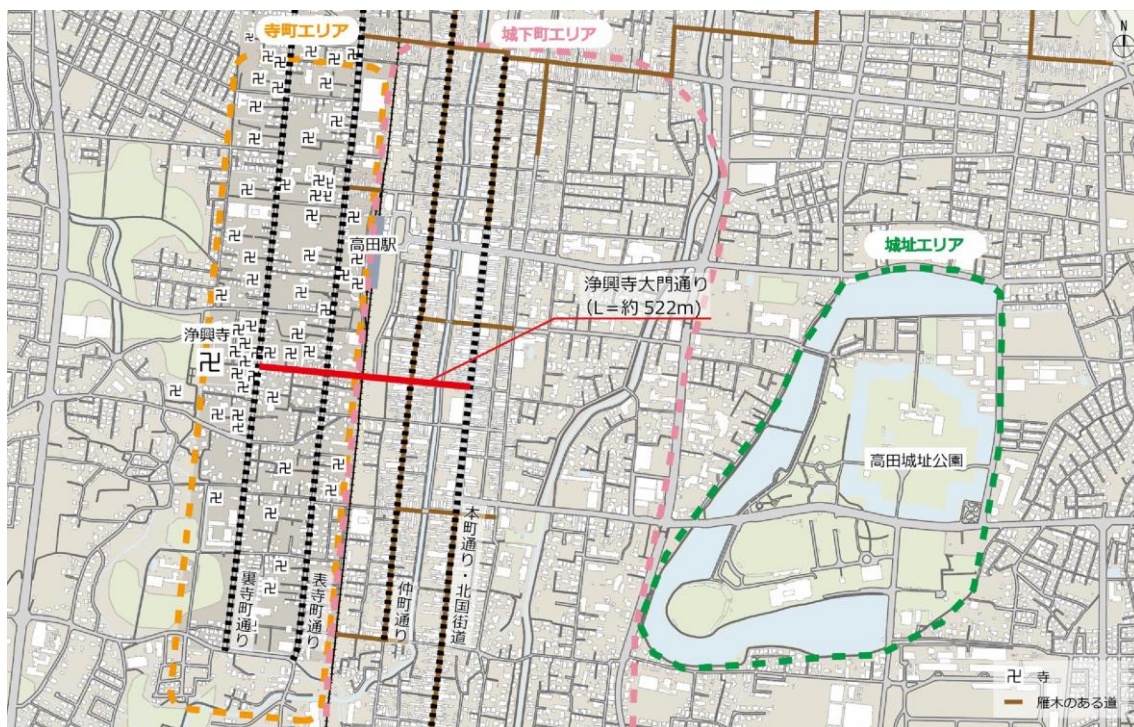
この景観ポイントブックは、あくまでも任意のものです。

「沿道の景観を良くしたいという気持ちがあるものの、やり方がよく分からない。」とき、ぜひ手に取ってください。一人ひとりの「まちを変えたい」という気持ちが行動に変わると、大きな変化に繋がります。

住民だけでなく、浄興寺大門通りを訪れる方々へのおもてなし通りとして、通り全体を心地よい空間とするためにはどうしたらいいか。自分たちにできることを考えるきっかけづくりとしていただきたいです。

また、この景観ポイントブックをきっかけに、「もっと浄興寺大門通りの景観を考えていきたい！」といったときには、市や浄興寺大門通りまちづくり協議会に相談してください。

対象地域 : 裏寺町通りから本町通りの延長 522mの通りです



出典：国土地理院地図



浄興寺大門通りの景観形成に向けて

上越市では、令和 6 年 4 月に上越市通年観光計画を策定し、地域の歴史や文化を観光資源として磨き上げることにより、観光の活性化を図るとともに、持続可能な地域資源として後世に伝承していくことを目的に、各地域の特色に応じた取組を展開しています。

寺町においては寺院の魅力向上と寺町全体の景観形成を目指すこととしており、浄興寺大門通りの修景整備を 1 つのモデル事業に位置づけ、取組を通じて、良好な景観が、豊かな生活環境の創出や、郷土に対する誇りや愛着の育成に寄与するものであると気づく人が増え、景観に対する機運が寺町全体に広がることを期待しています。

この度、こうした取組の一環として、沿道の住民、企業、寺院の皆さま一人ひとりにお願いしたい気遣い、活動を景観ポイントブックとしてまとめました。

浄興寺大門通りまちづくり協議会の将来像である「祈りの道としての大門通りの確立」を実現するため、沿道の皆さまに手に取っていただき、よい景観を維持・向上していくために何ができるかを考えるきっかけにしていきたいと思います。

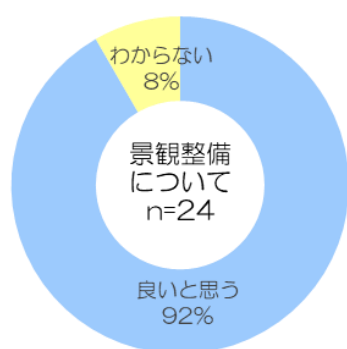


景観についてのアンケート

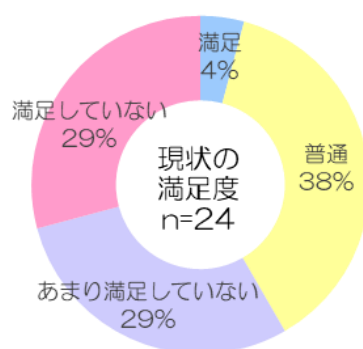
浄興寺大門通りの沿道の方々にアンケートを実施しました。上越市通年観光計画に基づき、浄興寺大門通りの道路・電柱・街灯・橋などをきれいにしていくことに対して前向きな方が多く、現状に満足していない方も多くいらっしゃいました。

また、日常的な清掃や美化への協力にも協力意向を示している方が多く、今後も沿道の皆さんと一緒に景観について考えることを続けることが重要だと感じました。

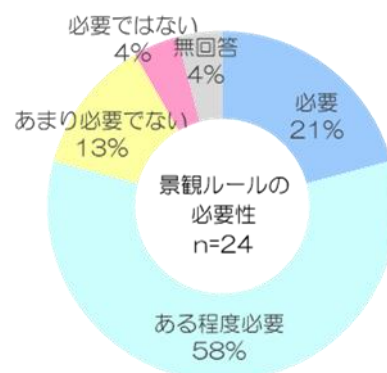
景観整備を進めることについて



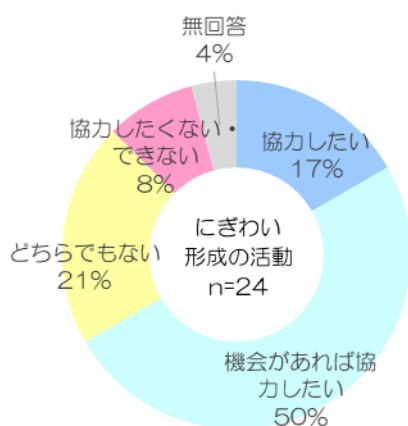
浄興寺大門通りの現状の満足度



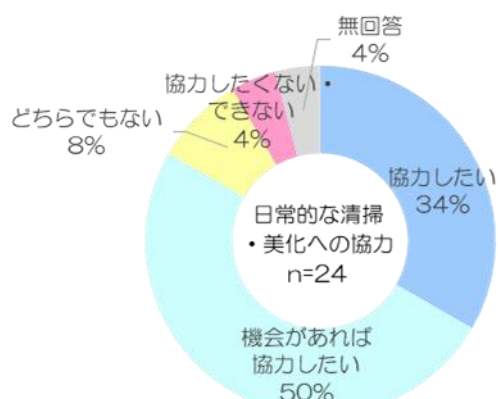
景観ルールの必要性



にぎわい形成の活動



日常的な清掃・美化への協力



高田寺町の歴史

高田城は慶長 19 年（1614 年）に徳川幕府による国家事業として築かれ、徳川家康の六男である松平忠輝公が城主に据えられましたが、わずか二年で忠輝公は改易、その後、寛永元年（1624 年）に領主となった松平光長公の時代に現在の高田の姿が造られたといわれています。

その後も領主がたびたび替わる時代を経て、寛保元年（1741 年）榊原家が入封し、明治維新まで続くことになります。

寺町の寺院をよく見ると、高田城築城以前の古い歴史と大変興味深い伝承を持つ寺院や他の地域の歴史をうかがえる寺院があります。これは高田城築城に伴って春日山城下や福島城下から寺院が移されてきた結果と領主が替わるたびに同行してきた寺院が残ったためです。

城下の西側に 2 列に配置された寺町は、南北 2 キロメートルにおよび、幕末まで塔頭を含めると 130 余の寺院があったといわれています。

しかし、明治維新の神仏分離や太平洋戦争後の農地解放により寺院の経済的基盤が失われ、少しずつ寺内に住宅が建ちはじめました。それでも現在 60 を超える寺院があり、稀に見る寺院群を形成しています。

寺町は日本のパラダイス

北から南にかけて二キロメートルにおよぶ寺地がつづき、数百年の老杉の下に仏教の寺々が列をなして並んでいる。朝と夕、僧たちが読経に参向するとき、鐘の音はじょうじょうたる神秘的なひびきを伝える。私の家はこの寺のそばにあった、だから二、三歩歩けば、この日本のパラダイスに達することができた。

テオドール・フォン・レルヒ少佐（「明治日本の思い出」中野理訳より）



浄興寺大門通りの将来を考える上で

浄興寺大門通りは、裏寺町通りから踏切の住宅エリア、仲町通りから本町通りまでの商業エリアと大きく2つに特徴が分かれており、さらに、門柱や橋、踏切があることで、区間の印象が異なることから、それぞれの空間の特徴をいかした修景整備や取組が必要だと考えています。

将来像 住民と来訪者にとって魅力あふれる祈りの道



出典：国土地理院地図

①裏寺町通り～表寺町通り



②表寺町通り～踏切



③踏切～仲町通り



④仲町通り～本町通り



修景整備のための3つの修景コンセプト

基 調

歴史的街並みをイメージさせる、
アース系カラーを基調とした安らぎや暖かみを感じる道

アクセント

沿道の皆さまの協力による緑や塀の統一

新たな魅力

地域主体のイベント活動の展開
活動を通じて、共助の精神を次世代へ継承



修景後イメージ

【市の修景整備】



道路：門前通りにふさわしい舗装の素材と色
電柱：無電柱化（裏配線）
街灯：景観照明の整備
橋：歓喜橋の塗り替え

市では、上記のコンセプトを踏まえた道路・電柱・街灯・橋の修景整備を検討しています。以降に示す景観ポイントは、沿道の皆様を対象としているため、道路等に関する項目は含まれていませんが、市も景観ポイントブックの内容を踏まえて、統一した景観の形成を目指します。

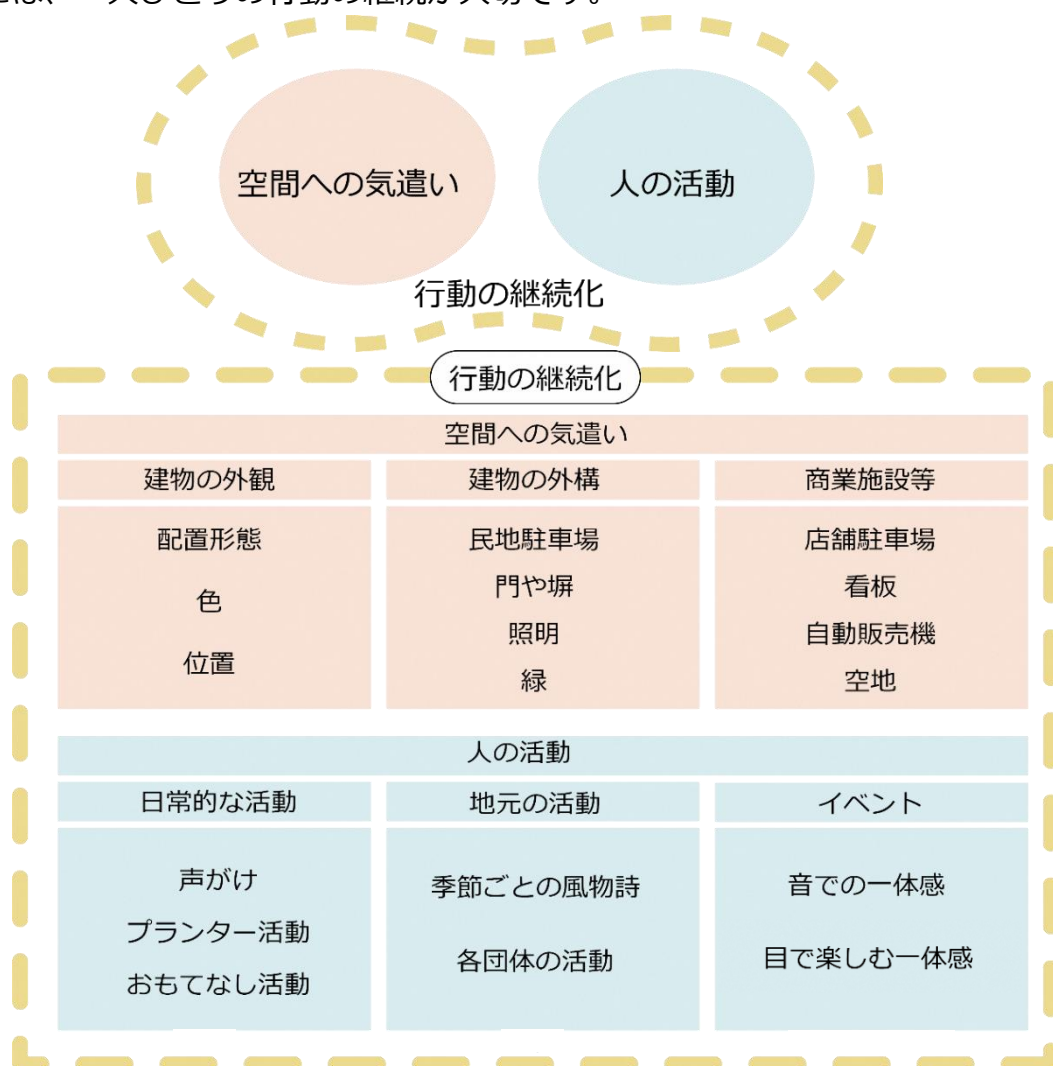


「空間への気遣い」と「人の活動」

浄興寺大門通りのより良い景観づくりのためには、建物の外観や外構など街並みを構成する「空間への気遣い」と、にぎわいや癒しを与える「人の行動」、それらを「継続」することが重要です。

その中でも「空間への気遣い」は、すぐに取り入れることが難しそうな内容も入っています。しかし、将来の「祈りの道」としてふさわしい沿道となることを期待して、今後の建て替えやリフォームの際に思い出してもらえるように記載しています。

浄興寺大門通りを修景し、その設えを維持しつつ、まち全体を変化させていくには、一人ひとりの行動の継続が大切です。



空間への気遣い

建物の外観

- ・ 隣り合う建物の位置が揃っていると街並みに連帯感が生まれます。(①)
- ・ 屋根の向きなどの建物の形を揃えると街並みの一体感が向上します。(②)
- ・ 色は自然界に多い色（アースカラー※）を選定すると景観への馴染みがよくなります。(③)
- ・ 原色に近い色は目立ってしまうので、使用する際は狭い面積とすることが望ましいです。
- ・ 壁・建具類の色や素材を工夫すると、通りとの一体性が向上します。(④)

①壁面が揃って連帯感向上



②屋根の向き・勾配を揃え一体感向上



③アースカラーによる景観への馴染み



④白壁・格子・庇で揃え一体性向上



※アースカラーとは？

自然の土や岩、樹木の幹の色彩に多い色で、ブラウン・ベージュ・カーキ等をいいます。暖色系で低彩度の色彩のことです。



建物の外構

- ・ 建物の外構には植物を植えて、緑を繋ぐと一体感が向上します。（①）
- ・ 建物の壁面が道路に近い場合は、自然に近い素材で、塀・柵などを作ると、建物の壁に「表情」がつき、また、プライバシーの保持にも役立ちます。（②）
- ・ 建物の前面に塀や車庫などを配置する場合は、材質や構法を検討し、人工的に感じられるプレハブ、鉄骨、シャッターなどは避けると、景観性が向上します。（③④）
- ・ 照明をつける場合は、暖色系の照明を設置すると温かみのある空間が演出されます。
- ・ 通行者の目線にある室外機などは、目隠しをすることで景観に調和させることが可能です。（④）

①プランターなどで緑を配置



②犬屋来（駒寄せ）



③建物の周りの塀の素材を配慮



④室外機等の配慮



商業施設等

- ・ 植栽や塀・柵・看板等の建物付属物についても、アースカラーや統一性をもって考えると通り全体の一体性が向上します。(①)
- ・ 沿道に面した場所で無機質なコンクリートを採用する場合等は、緑などの自然を取り込むことで、周りの景観との馴染みが良くなります。(②)
- ・ 自動販売機などは、道路正面の配置を避けたり、自然素材によるラッピングやアースカラーにすることで、景観に馴染みます。(③)
- ・ 看板は、周辺と同じ色味にすることで、空間の一体感・調和を生むことができます。(①)
- ・ 大型駐車場や入口は、広場としても活用できるよう、素材を工夫し殺風景にならないように工夫することも大切です。(②④)
- ・ 空き地には、来訪者が休憩に使えるベンチなどを置くと、新しい使い方が生まれるきっかけになります。

①街並みに配慮した銀行



②舗装に配慮し、周辺を樹木で囲った駐車場



③自動販売機を自然素材で目隠し



④景観に配慮した入口



人の活動

日常的な活動：個人

- ・ 日常的に挨拶が行き交うまちは、地域の人にとっても来訪者にとっても居心地の良いまちになります。
- ・ こまめなゴミ拾いや掃除は、快適な空間となります。
- ・ 花や緑が見えるように飾ってあると、歓迎されていることが分かり、心地よく感じます。（①④）

地元の活動：全体

- ・ 市や協議会・団体の取組に出来るだけ協力し、仲間を増やすことで、一人では難しい活動を実現するきっかけになります。
- ・ 地域の取組に参加することで、通りへの愛着やまち全体への愛着が生まれます。（③）
- ・ 地域一体で、季節に応じた取組を実施することで、継続的に一体感のある景観づくりを行うことができます。（②③④）

イベント

- ・ イベントに参加すると輪が広がり、まちを変える力に変わります。（③）
- ・ 小さな子どもを含む若い方や中高生のグループ等に入ってもらいとまた違った意見が出て、変化のきっかけとなります。

①個人のおもてなし、気遣い



②川を利用したにぎわい創出



③季節に合わせたイベント開催



④季節のおもてなし





浄興寺大門通り景観ポイントブック

- 心地よい景観が共助の精神を育む -

発行	令和 7 年 7 月 発行
編集	上越市
	上越市文化観光部魅力創造課
	〒943-8601
	上越市木田 1-1-3
	TEL 025-520-5739
	FAX 025-520-5853

